



News Letter



竹内緑を支えるルワンダの会 No.23(2023年12月)

Merry Christmas

2023年の最後の月になりましたが、今年はどのような1年だったでしょうか。

イタベホでは、受益者である子供たちが荒れて色々な事件を起こし、その対処に苦慮した年でした。経済的に恵まれないだけでなく精神的劣悪な環境で育つ子供たちには、理解できる面もありますが度重なる過ちを容認することはできません。これらを通して私自身の無力と愛の不足を痛感したことでした。

さて去る9月から10月まで、一時帰国をしていました。各地を行脚して報告することはできませんでしたが、有意義で貴重な2か月間でした。

今年の1月より鳥取県看護協会の機関誌「こすもす」に、イタベホの働き等の記事が3回にわたって掲載されました。今回のニュースレターは、鳥取県看護協会の許可を得てこの記事(3回分)を掲載いたします。3回分の記事で通常より長くなりましたが、最後までお読みくださると幸いです。

3回連載シリーズ | 国境を越え活動する看護職



第1回 「ルワンダにおいて」

「価値ある事業は、ささやかな、人知れぬ出発、地道な労苦、
向上を目指す無言の、地道な苦闘といった風土のうちで、真に発展し、開花する」

フローレンス・ナイチンゲール

ボンボコ…遠くで太鼓の音がする、丘陵地に植ったユーカリやバナナの樹々、トタン屋根の貧しい家々が点在し、軒先にはたわわに実ったアボガドや白い小さな花をつけたグワバの樹々がある、ここはルワンダ共和国。アフリカ大陸の中央に位置し、28年前(※)約80万人の犠牲者を出した大虐殺が起きた国です。

ここで、私は心に傷を負った人たちのケアを行なっています。この働きは、2015年に始まり、受益者30人という小さな働きです。受益者たちは、28年前の大虐殺によって、また性暴力や家庭内暴力、極度の貧困や物乞い、売春婦の子など、心に深い傷を負った女性たちとその子供たちです。これらの女性たちはシングルマザーで、その子供たちが私共の所にやって来た時は栄養失調でした。



受益者の姉妹と筆者
(シェルターにて)。2022年

この女性たちに、精神的、肉体的、経済的、霊的な支援を行っています。かつて
粗暴だった女性が、数年を経て穏やかになってゆく様は、労苦と苦闘を惜しんでは
ならないと、私を教え励ましてくれるのです。

※大虐殺が28年前となっていますが、執筆したのが昨年であったためです。



受益者の一家（シェルターにて）2016年



活動地（ブギセラ郡リマ町）の中心街

3 回連載シリーズ | 国境を越え活動する看護職



第2回 「いのちの格差」

今回はルワンダの医療事情についてお知らせ致します。

ルワンダの医療体制は、下位に Community Health Worker、看護師によって訓練され、地方で単純な手当や処置を行う人がいます。その次に Health Post、数人以下の看護師が単純な治療を行う施設です。その上に Health Center があり助産師による分娩、検査室や薬局の設備があり、看護師が治療し医師不在の施設です。その上に医師が勤務し入院の設備のある病院です。但し、入院しても給食はなく患者の家族が食事を運ばなければなりません。加えてシーツや薬品など病院側が準備できない物品は、患者側が購入し準備します。

健康保険は数種類ありますが、最も廉価なのは1人当たり年間1,000円弱(*)の保険料を支払えば、受診に際し窓口負担はゼロに近い低額です。しかし、この保険の適応範囲は限定的であり、病院で実施できない検査や所有していない薬品等、院外で行う場合は実費であるため高額になります。そして、この保険料さえ支払えない貧しい人は少なくありません。

国内の医療機関は、国が運営する公立と健康保険適応外の私立があり、後者の方が整備されていますが、これを利用できるのは富裕層の人です。

私たちの受益者は最下層の人たちです。数年前、受益者のひとりが下肢を骨折し、地方の基幹病院を受診しました。そこでは、レントゲン撮影の設備がないため、40キロ余り離れた首都の病院へ行き、片道2時間以上要して帰ってきました。その結果を見た医師は、「当院では治療できないので、首都の病院へ行くように」と言いました。

首都の病院へ行くと「患者数が多いため治療は、1か月後」というのです。私たちの選択肢は三つ、一つ目は1か月間待つ、二つ目は他の病院へ行く、この場合3か月間は待たなければなりません。三つ目は治療費が高額の私立病院です。

そこで受益者は、役所へ医療費の援助を申請しますが拒否されます。結果、私共が治療費の全額を支援し、私立病院で治療をすると決断しました。驚いたことに、治療費は前払いで全額支払うまで治療は始まらないというのです。当方が治療費を支払い、受益者は手術の当日だけ入院して翌日には帰宅しましたが、順調に回復しました。



最寄りのHealth Centerです。私たちの事務所兼シェルターから3キロ余りの距離に位置しています。

医療体制が脆弱なルワンダでは、南アフリカやインドなど国外で治療する富裕層の人たちがいます。一方、国内でも医療の恩恵にあずかることのできない貧しい人たちは多いのです。貧富の差は医療の格差を生み、それはいのちの格差を生じる、と言えます。

※正しくは400円余りですが、原文のまま掲載いたします。



Health Centerへ行くには、乗り合いバスを利用していますが、最も多いのが写真右のバイク・タクシーです。写真左が自転車・タクシーです。



3回連載シリーズ

国境を越え活動する看護職



第3回 「看護は愛の業」

「私たちの働きは表面的ではなく、深くならなければなりません。私たちは、心に届かなくてはならないのです。心にまで届くには、行いの中に愛がなくてはなりません。」

マザー・テレサ

アフリカと関わって30年、臨床を離れて30数年を経た今、変化の著しい医療の世界は隔世の感があります。そのような者が看護について言及するのは僭越ですが、アフリカでの体験を通して得た私見を述べます。

私共の活動の受益者の中に、双子の女兒とその母がいます。母は、孤児として孤児院で育ち長じて恋人ができますが、彼女にてんかん発作があることを知った恋人は去ってゆきます。その時、彼女は既に妊娠していて、やがて双子を出産します。この双子が1歳3か月の時、親子に出会いました。当時母はスラム街のような所に住み物乞いをしていました。双子は、体重が約6キロ、首は不安定で寝返りもできない、顔色は悪く発熱し咳をしていました。明らかに二人は栄養失調であり、呼吸器系或いは何らかの感染症に罹患している。このまま放置すれば早晚死に至る、と強い危機感とある記憶が蘇って来ました。

それは2000年、エチオピアの東部で5歳以下の子供たちの栄養失調の治療に当たった時のことでした。その年、大旱魃に見舞われたエチオピアでは、ラクダを家畜として生きる遊牧民の人たちに甚大な被害をもたらしました。特に弱い乳

幼児に深刻な栄養失調として影響を与えました。筆者は2か月間そこで働きましたが、中にはその治療所に到着後24時間以内に亡くなる重篤な幼児がいました。その痛みを伴った体験が双子への決断を促しました。

この親子を数十キロ離れた私共のシェルターへ受け入れ、治療およびケアを開始したのが2017年12月でした。双子に治療食を与え、母には定期的に病院を受診させ、てんかん発作への対応と同時に他の疾患への治療も併行しました。そして今日、双子は回復して本年9月には小学校へ入学します。母は、支援を開始した当初、問題行動が多く陰鬱な表情でしたが、2年余り前から穏やかな表情に変わりました。

看護は科学に裏付けられた愛の業であると、筆者は考えます。私共の受益者は、精神的、肉体的、経済的、社会的な弱さを抱える人たちです。この人たちと接する時、愛の必要性を強く感じます。「**愛には恐れがない。…愛は忍耐強い、愛は情け深い…礼を失せず…、自分の利益を求めず、いらだたず…**」(聖書)

受益者の心に届く愛をください、と祈る者です。



治療にやってきかぬ失調の幼児（顕著な腹部の膨満と歌詞の浮腫が見られます）と母。（エチオピアにて）2000年。



文中の双子（6歳7か月）2023年

今年も皆様のご支援とお祈りに感謝を申し上げます。どうぞ、豊かなクリスマスをお迎えください。そして来る年が神様の祝福が豊かな年となりますように。

在
主
2023年12月、キガリにて
竹内 緑



祈りの課題

1. 受益者である子供たちが、「神を愛し人を愛する人」として成長しますように。
2. 2024 年も活動費が与えられますように。
3. 受益者（大人も子供も）、病気や事故、種々の誘惑から守られますように。
4. 私をはじめスタッフたちが、この働きにふさわしい者として整えられますように。
5. イタベホが内外共に確かな NPO として整備され成長してゆきますように。

【ご支援・ご協力をお願い】

「竹内緑を支えるルワンダの会」の活動にご賛同くださる方は、是非、ご支援とご協力を頂けますようお願い致します。

年会費（会計年度 1 月 1 日～12 月 31 日）

会員 一口 5,000 円 / 賛助会員 一口 2,000 円

※会費以外の寄付も随時お受けいたします。

【会費・ご寄付の送金方法】

- 郵便振込（別紙払込取扱票又は郵便局備付けの払込取扱票をご利用ください。）
郵便振替口座：01330-5-102074
加入者：竹内緑を支えるルワンダの会
- 郵貯銀行振込
郵貯銀行口座 記号 15250 番号 3593801

NGO の名称、ルワンダ語で **ITABWEHO**（イタベホ）、の意味は

「愛すること、世話すること、癒すこと」

などであり、私たちが行っていることです。

1. 心の傷を癒すために心理学（精神）的だけでなく、全人的なアプローチを行う。つまり、心理的、肉体的、社会的、霊的な支援を行う。
2. 心に傷を負った女性だけでなく、彼女の家族（子どもたち）をも含めて支援をう。
3. 必要な人には、シェルターを提供し、我々の保護下で生活を共にしてケアを行う。
4. 支援する受益者は、ひとり一人を大切にするため 30 人余りの少人数とする。

連絡・お問い合わせ先：「竹内緑を支えるルワンダの会」事務局
〒680-0463 鳥取県八頭郡八頭町宮谷 224-1 日本キリスト教団八頭教会内
電話 0858-72-0075 E-mail: mtakeuchi.rwanda@gmail.com（竹内緑個人アドレス）